

# 霞目駐屯地の初動2日間!!

## ～眠らない人命救助活動～

# ドキュメント

3月11日14時46分の地震発生から15分後、東北方面航空隊の映像伝送機(UH-1)が離陸。26分後、OH-6Dが偵察のため離陸。霞目駐屯地(司令:荒関和人1等陸佐兼東北方面航空隊長)にある霞目飛行場は慌ただしく動いていた。15時25分には、地上偵察活動が始まった。



東北方面航空隊本部のある建物は入口の階段が崩れ、建物内も棚という棚が倒れて中身が吹き出している。電気はとまり、水もとまった。

駐屯地と飛行場の間にある道路は渋滞で動かない。住民たちも避難ができない。そんな中、津波が発生。駐



屯地内の体育館を開放し、避難民を受け入れることにした(述べ3122名を3月16日まで受け入れ)。

雪が振り出し16時過ぎから飛行不能となったため、捜索・救難活動が思うようにいかない。乗組員を乗せ準備万端のUH-1が、はやる気持ちを抑え出動したのは17時03分。ホットリフューエルをしながらそのまま20時40分まで続行した。後続のヘリはまだ捜索・救難活動中。



救助した被災民を降ろし、また出動。3機のUH-1が昼夜連続で活動。12日午前3時30分からは第1ヘリコプター団から応援に来たUH-60 2機も人命救助活動に加わり、12日未明までに救助した被災民は169名。

12日は、炊事所の開設・発着地の設定(石巻総合運動公園・早瀬川運動公園と平田グラウンドは14日から)と活



動内容も増える。前夜到着した政府調査団と宮城県知事がCH-47で航空視察をする手配もした。人命救助活動は前日と同じでホットリフューエルをしながら昼夜連続で継続している。「風も出て来たのにホイスト作業は怖くありませんでしたか?」の問いに「怖いなんて思わなかった。ただ、ひとりでも多く早く救助したい一心だった」と人命救助活動をしていた隊員は言う。

松島基地も仙台空港も使用不能なため、増援部隊(第1ヘリ団、北方・東方・中方・西方)のヘリ全てを受け入れる。自衛隊機だけでなく他官庁機の燃料補給・係留も受け入れた。いつにも増した管制・気象・航務業務は予備発電機で行った。同時に、増加幕僚や連絡幹部の派遣も請け負い、物資空輸も行われる。

地震発生からおよそ3ヶ月。だが霞目飛行場は今も最前線で活動している。



「ホットリフューエル中」  
エンジンをかけたまま  
給油をする!

